

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

施設名	渋谷教育学園 晴海西こども園
施設所在地	東京都中央区晴海4-8-1
事業者名	学校法人渋谷教育学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

豊かな感性を育むための環境づくりー園庭に生き物を呼び込む環境の工夫ー

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

晴海フラッグという新しい街に新設された大規模こども園という環境で保育に取り組んでいる。立派な施設設備ではあるが、人工的な造りの園庭であるため、子どもたちが園生活を送りながら身近な自然と関わる機会を設けることが難しい。また、子どもたち自身が、今までに自然と関わって遊ぶ経験が少ない実態がある。子どもたちが園の自然環境に興味をもって関わり豊かな感性を育ててほしい。

2. 活動スケジュール

令和7年4月～令和8年3月の1年間を通じて、主なスケジュールは以下の通り。

5月：ビオトープづくり、ゴーヤのグリーンカーテンづくり

6月：イネ、なす、ピーマン、トマトなど野菜の栽培

6月、10月：プロ・ナチュラリスト 佐々木洋先生の講演会

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

幼児学級を中心に、生き物を呼び込むための様々な環境の工夫を行う。そのためには、講師を招聘したり研修会に参加したりして、保育者自身も自然について学ぶ機会を作り、そこで得たことを日々の保育に還元できるようにする。そして、子どもたちと共に、自然を取り入れ、関われる環境づくりの活動「虫のマンション」「ビオトープ」「バタフライガーデン」を行なう。また、稲作やグリーンカーテンづくりは、昨年度の反省を生かし改善して取り組む。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

生き物呼び込むための環境づくりは、保育者自身が日当たりや樹木の種類など園内環境を観察し、ビオトープづくりのための水槽やメダカの飼い方など、日々の連絡や園便りで知識を得て大きな水槽を2階に設置した。「虫のマンション」は昨年度より範囲を広げ、枯れ葉や小枝を利用した「ホダづくり」、チョウやバッタ、鳥などを呼び込むために必要なシソ、ヒマワリ、マリーゴールドなどを植栽した。グリーンカーテンや野菜の栽培は、昨年度の反省を生かして栽培方法を改善し大収穫となった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

なじみの深いダンゴムシやアリに加え、赤トンボやカタツムリ、ハサミムシ、シジミチョウなど予想以上にたくさんの生き物が園庭にいることに幼児も保育者も驚いた。また、それらの生き物が園庭の植物ほかの生き物を食べて生きていることを知り、このことについても驚いていた。いつも遊んでいる園庭がより特別な場所と感じるようになってきている。友達や保育者に「探検に行こう」と誘い合って生き物の発見や変化の気づきを楽しんでいる。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

プロジェクトメンバーで取り組み始めた活動ではあったが、園内自然マップ作成に取り組んだり、飼育栽培担当や学年で積極的にいろいろな野菜栽培に挑戦したりして、食育活動につながっていったものが多くある。フライドポテトづくりや大根の煮物づくりなど、幼児にとっても思いがけない体験となった。ビオトープでは、メダカの産卵、誕生に大喜びし、タニシやヌマエビが住みつき、トンボ類や鳥などの姿が見られるようになり、観察したり、図鑑で調べたりしている姿がある。稲づくりでは、出穂までは順調に育っていたにもかかわらず、収穫直前にすべてのお米をねずみ（築地市場の移転に伴い、晴海地区に大量のネズミが移動してきている）に食べられてしまい、衝撃的な出来事であった。昨年度よりも、自然とかかわる保育者、幼児の姿が多く見られるようになってきている。生き物は昨年度より増えているが、子どもの関わりの姿を記録として残しておかないと流れてしまい、園の遊びや生活の文化になっていかない。自然体験から得られた感動や、失敗から学ぶものが、子どもの心を揺さぶりを豊かにしていくことを実感している。また、保護者へすくわくプログラムの取り組みの情報発信について日々の連絡や園だよりで、より子どもたちの育ちや学びの姿が伝わる内容となるよう改善・工夫していきたい。